

ブランキング型の低価格化を実現

オリジナルブランキングシステム「Snap Changer」を開発

株式会社スリープイ



同社ホームページ

抜型メーカーのスリープイ（東京都江戸川区、☎03-3659-3291）は、ブランキング型を安価に提供することが可能なシステム「Snap Changer（スナップチェンジャー）」を開発、2020年10月に特許を取得し、紙器業界に向け本格的な提案を開始する。

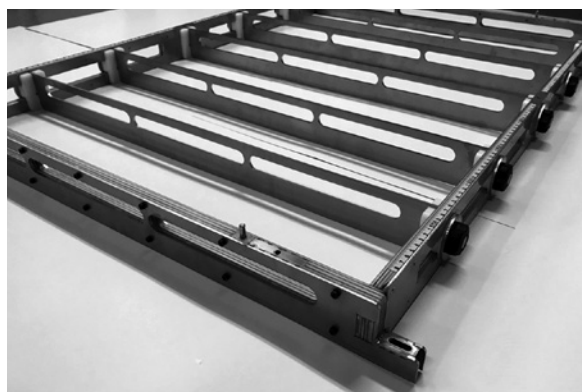
ブランキングをもっと身近に

スナップチェンジャーの最大の特徴は、強度を確保するため装着されるメス型の縦鉄板をフレームに内蔵し、さらにスライド方式にしたこと。一般的なブランキング型は、メス型のフレームに鉄板と天板が装着された状態で納品される。これに対してスナップチェンジャーは、フレームと鉄板、天板が分離できる構造になっている。形状に応じて鉄板をスライドさせて調整でき、天板はメス型に乗せて使用する

る仕組みなので、多くの部材が繰り返し使用でき、汎用性に優れる。また、紙器工場のオペレーターにとっては、セット時間の短縮と作業効率の向上が期待できる。

システム構成は、繰り返し使用できるメス型のフレーム（レシーバー）とオス型（アッパー）を「スナップチェンジャー本体」として提供する。本体価格は1060サイズで50万円、1150サイズで58万円に設定。これを導入すれば、以降は8面付までのブランキング代（オス型のプッシャースポンジとメス型の天板）を一律10万円で提供する。一般的な8面付ブランキング型の相場が20～25万円程度とされていることからすると、使うほどに大きなコストメリットが得られる。

現在、このシステムは三和製作の平版打抜機のみに対応している（ボブストなど他社製の機械への導入は要相談）。



レシーバー（メス型のフレーム）

長年のテーマをカタチに

スナップチェンジャーの開発は、2019年夏頃、取引先の大手印刷紙器メーカーからの要請に対応する形でスタート。当初のテーマは、ブランキング用のオス型を簡易化したいという内容だったが、開発に取り組む中で、メス型を改善することで、より大きな成果が期待されることに気づき、開発の方向性を軌道修正した。



開発を担当した梶井剛志生産管理統括マネージャーは「ブランキング型はオス型・メス型の組み合わせで構成されるが、オス型については、同業他社が先行した開発事例が生み出されていた。しかし、メス型の方にコストダウンや生産性向上の可能性があると考え、ユーザーに逆提案し、結果をだすことができた」と話す。

梶井マネージャーはスリーブで働く前、別の抜型メーカーで技術者としての経験を重ねてきた。そのキャリアの中で、一般的に高価とされているブランキング型を安価に提供したいというテーマを長年抱いていたという。

「抜型製造のあいまにいろいろなアイデアを検討し、開発の方向性はつかんでいた。ユーザーから改善の要請を受けた時、それまでの積み重ねが実を結び、3カ月程度で完成させることができた」と梶井マネージャー。

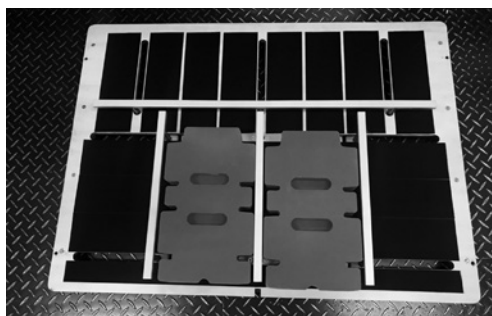
スナップチェンジャーは、大手製薬会社が販売するロングセラー商品の紙器パッケージに採用された。採用から1年を経て、耐久性は従来品と同等の性能を有することが実証でき、2020年秋から他のユーザーにも提案を開始している。

梶井マネージャーは「紙器製造現場では、生産性向上を目的として抜型工程の効率化に対するニーズが年々高まっている。当社でも、効率化ニーズを背景にブランキング型の需要が伸びているが、スナップチェンジャーを普及させることで、ユーザーのコストダウンと生産性向上に貢献したい」と意欲を示す。システム販売に加え、ニックやストリッピングなどに関するノウハウを提供することで、紙器メーカーの打抜き現場の生産性向上を支援していく。

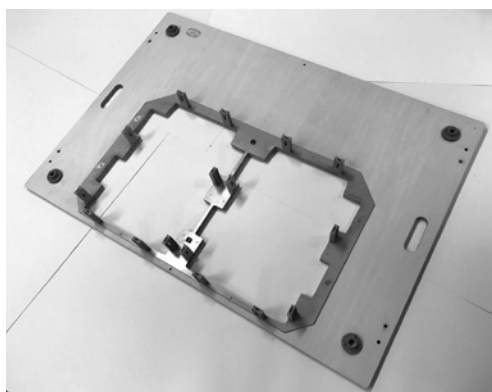
なお、スナップチェンジャーというネーミングは、梶井マネージャーの夫人のアイデアだという。スナップとは、指をパチンと鳴らす動作のことで、簡単にセット替えができるという意味を込めた。チェンジャーは、簡単にセットできるシステムという意味で、ボタン一つで曲を選べるCDチェンジャーから着想を得たという。📷



レシーバーに天板をセットした状態



アッパー（オス型）



Snap Changerブランキングの天板

